

短期集中C型の



みんなで考えよう well-being ⑤

ともひろ
TRAPE 代表 CWD / 作業療法士 鎌田大啓

専門職中心から本人主体の短期集中サービスへ



短期集中型は3カ月の期間限定のため「サービス終了に近づく」と利用者が専門職のサービスがなくなることに不安を訴える」という課題をよく聞きます。私たちはその原因を①専門職による専門的なサービス中心(本人中心でなく、本人が受け身)②本人のセルフマネジメント力(自己選択・自己決定する自律力)が向上する体験を提供できていない」と捉え、本

人と専門職の対話によって解決をめざしています。

することが必要です。そこに本人の主体性が生まれます。

と同士が1つのストーリーに向けて言葉を交わすことで、互いの共通点や可能性に気づき、周囲と本人の新しい関係性を構築していくプロセスです。私たちの短期集中型では「サービスを提供するPT・OT・介護福祉士の役割をこの「対話」だと明確に定義しました。

その上で専門職として本人がセルフマネジメントを高められるような働きかけをします。家族も含め、日常で繰り返ししてもらうような取り組みを構築するのです。

これは本来の専門性を一度、横に置き、真っ白なキャンバスの状態に置き、本人のストーリーに向き合うという事です。当初はどの専門職も大きく戸惑いましたが、私たちのメンソッドの教育により実践が可能となりました。

提供時間についても、1回120分のうち最低30分は面談時間として対話にあてました。

本人のエピソードを深掘り

面談方法にもコツがあります。現在の生活における活動状況、体験内容、感じたことなど「日常のエピソードを深掘りし、承認・称賛

「スーパーでの世間話」から「外出・移動」「会話」「買い物」活動を承認・称賛

面談/対話をよりスムーズに行うために開発したのが「セルフマネジメントシート」です。図の青枠には自主トレメニューがあり、できた日は○を付けます。赤枠に

人と専門職の対話によって解決をめざしています。

これは本来の専門性を一度、横に置き、真っ白なキャンバスの状態に置き、本人のストーリーに向き合うという事です。当初はどの専門職も大きく戸惑いましたが、私たちのメンソッドの教育により実践が可能となりました。

提供時間についても、1回120分のうち最低30分は面談時間として対話にあてました。

本人のエピソードを深掘り

面談方法にもコツがあります。現在の生活における活動状況、体験内容、感じたことなど「日常のエピソードを深掘りし、承認・称賛

「スーパーでの世間話」から「外出・移動」「会話」「買い物」活動を承認・称賛

面談/対話をよりスムーズに行うために開発したのが「セルフマネジメントシート」です。図の青枠には自主トレメニューがあり、できた日は○を付けます。赤枠に

一言日記を書いてもらいます。短期集中に来る週1回以外の6日間、どこで誰と何をしたか、どう感じたか、など日常生活の印象を書いてもらうのです。この記載が最重要で、内容については、あらゆる角度からポジティブなフィードバックをします。

例えば「スーパーでAさんと久しぶりに世間話をした」とあれば、自宅からスーパーまでの距離を歩くこと、知人と話をすること、自分で買い物をする事、などがいかに介護予防として良いことか、個々の活動を承認・称賛するのです。これを繰り返すことで日常生活での活動量や範囲が少しずつ増え、元の日常を取り戻していただけます。

高齢者の多くは日常生活での役割を失い、他者から承認を得る機会からも縁遠くなっています。だからこそ何気ない日常生活に小さな承認を積み重ねてもらうことが大きなモチベーションと自信に繋がります。セルフマネジメント力を身につけることにつながるのです。

今回は、面談/対話の中で得た情報を具体的にどのように整理/解釈/リデザインしていくのか、その土台となるICFの活用方法について書いていきたいと思います。

短期集中通所サービス_セルフマネジメントシート		この目標(↑)のために、自宅で、自分で、毎日取り組むこと(=セルフマネジメント)				一言日記
氏名	目指したい3か月後の生活	そのために【月に】頑張ること				
目標	サービス利用	1	2	3	4	自主トレメニュー
目標設定・実施						
						一言日記
ご意見コメント		ご本人コメント(1週間を振り返って)				利用開始日のメッセージ・アドバイス

※セルフマネジメントシートは ©TRAPE を入れていただければ自由に使用いただけるものになっております。また TRAPE ホームページからもダウンロードしてお使いいただけます。https://trape.jp/works/project/neyagawa-pj/

2018年大阪府寝屋川市でのモデル事業において事業運営を担当した私たちTRAPEは、利用者のセルフマネジメント力を引き出すことができるような、それまでになかった新しい短期集中予防サービス(以下「短期集中型」)を構築し、専門職育成などを行いました。

専門職の役割は「対話」を軸にする

面談方法にもコツがあります。現在の生活における活動状況、体験内容、感じたことなど「日常のエピソードを深掘りし、承認・称賛

「スーパーでの世間話」から「外出・移動」「会話」「買い物」活動を承認・称賛

面談/対話をよりスムーズに行うために開発したのが「セルフマネジメントシート」です。図の青枠には自主トレメニューがあり、できた日は○を付けます。赤枠に

一言日記を書いてもらいます。短期集中に来る週1回以外の6日間、どこで誰と何をしたか、どう感じたか、など日常生活の印象を書いてもらうのです。この記載が最重要で、内容については、あらゆる角度からポジティブなフィードバックをします。